

平成27年度在外公館・各国政府向け青年国際交流事業に関するアンケート調査結果 (未定稿)

I. 調査の概要

1. 調査目的

平成26年度の交流対象国を管轄する在外日本公館担当者及び相手国政府担当者に対するアンケート調査を実施し、主に二国間関係の強化に資するという観点から事業全体としての評価を行うとともに、今後の事業実施に当たっての参考に資するものとする。

2. 調査対象

平成26年度に実施した以下の事業の交流対象国の在外日本公館及び相手国政府担当者(合計29か国)

- | | |
|------------------|------------------------|
| (1)国際青年育成交流事業 | (3)青年社会活動コアリーダー育成プログラム |
| (2)「東南アジア青年の船」事業 | (4)グローバルユースリーダー育成事業 |

3. 調査内容

- (1)外国青年の招へいにかかる手続き
- (2)招へい後の外国青年の活動状況
- (3)外国青年の招へいの意義
- (4)交流事業における船の寄港の意義(「東南アジア青年の船」事業寄港国のみ)
- (5)交流事業における日本青年の航空機による訪問の意義(訪問国のみ)
- (6)内閣府青年国際交流事業に関する要望

※原則として、在外公館については(1)～(6)全てを調査し、交流対象国の政府については(3)～(6)を調査した。

※「東南アジア青年の船」事業の対象国については、毎年度開催する各国連絡会議において情報共有を行っているため、(1)及び(5)は省略することとした。

4. 調査時期

平成27年4月3日～4月24日

5. 調査方法

外務省本省(広報文化交流部人物交流室)を通じて在外公館担当者あてアンケート調査票を送付、電子メールにより回答を受領。相手国政府担当者については、在外公館担当者を経由して調査票を送付し、同じく在外公館経由で調査票を受領。

6. 調査実施機関

内閣府政策統括官(共生社会政策担当)付参事官(青年国際交流担当)

7. 回収結果

25か国から回収(回収率86%)

Ⅱ. 調査結果の概要

(1) 外国青年の招へいにかかる手続き

① カウンターパートとなった相手国政府機関

大部分の国において、青少年施策に関わる政府機関（青年省等）がカウンターパートとなっている。一部の国においては外務省がカウンターパートとなっている。

問 外国青年の招へいを実施するに当たって、カウンターパートとなった相手国政府の機関名を教えてください。

（一部のみ抜粋）

インド	青年スポーツ省 (Ministry of Youth Affairs and Sports)
トルコ共和国	青年スポーツ省 (Ministry of Youth and Sports)
ニュージーランド	青少年育成省 (Ministry of Youth Development)
ペルー	外務省 (Ministry of Foreign Relations of Peru)
エストニア	教育科学省青年勤労センター (Estonian Youth Work Centre, Ministry of Education and Research)

② 選考の実施主体（複数回答可）

カウンターパートとなった政府機関に推薦を依頼している国が大半（9 か国）である。次いで相手国政府機関と日本大使館が共同で選考する国が続く（3 か国）。また、「その他」では、事後活動組織と日本大使館が共同で選考している事例があった（1 国）。

問 招へい外国青年の選考の実施主体を教えてください。

・相手国政府等現地機関	9 か国
・日本国大使館	1 か国
・相手国政府等現地機関と日本国大使館が共同で選考	3 か国
・事後活動組織	－
・その他	1 か国

③ 選考方法（複数回答可）

ほとんどの国で、書類選考＋面接試験といったように、複数の選考方法を組み合わせて実施している。とりわけ面接試験は多く（8 か国）の国で実施されており、労力を掛けて人物重視の選考が行われていることがわかる。他は、「社会貢献活動や地域活動に関する実績の評価」（5 か国）、「応募書類による選考」（4 か国）、の順で実施されている。

問 招へい外国青年の選考方法について、以下の中からあてはまるものを全て選んでください。

・応募書類による選考	4 か国
・筆記試験(一般教養や作文等)	3 か国
・語学試験(英語)	2 か国
・面接試験	8 か国
・社会貢献活動や地域活動に関する実績の評価	5 か国
・その他	3 か国
・把握していない	1 か国

④ 応募人数

国によって大きく異なるが、200 名以上の国(4 か国)が最も多く、最終的な参加青年数は1 か国当たり10 名前後であるため、20 倍以上の高い倍率となっており、現地において非常に人気の高い事業となっていることがわかる。最も多い国では約 1,000 名の応募があったことが判明した。

問 招へい外国青年の選考に当たって、応募があった外国青年の合計人数を教えてください。正確な人数がわからない場合は、概数で構いません。把握していない場合は、空欄としてください。

・19 名以下	3 か国
・20～49 名	1 か国
・50～99 名	2 か国
・100～199 名	3 か国
・200 名以上	4 か国

⑤ 今後の改善要望(一部のみ抜粋)

在外公館に対し、外国青年の招へいについて改善すべき点等をたずねたところ、以下のような要望が寄せられた。

問 外国青年の招へいにかかる諸手続きについて、改善すべき点その他特筆すべき事項があれば御記入をお願いします。

(代表的な意見のみ抜粋)

- 本事業が日本にとっての人脈につながるよう、どのような事前研修や事後のフォローアップを行うべきか、参考例を示したガイドラインを作成し、電報の付属資料とすべき
- 事業の日程や中身を参加国の在外公館に共有してもらえれば、日本での活動をより有意義なものにするために事前研修を行うことが出来る。
- 事後活動組織がしっかりしている場合には、選考過程において事後活動組織に積極的に関与してもらうのが最善と考える。
- 外国青年の招へいにかかる相手国政府とのやりとりに際しては、プログラム実施後のフォローアップ及び担当省庁との連携強化の観点から、今後、在外公館にも適切な情報共有がなされることが望ましい。
- プログラムに関する情報を前広に示す等の方法により、プログラムの内容を熟知させ、参加者と主催者との見解の齟齬が生じないような対応が必要と考える。

(2) 招へい後の外国青年の活動状況

① 帰国後の報告(複数回答可)

多くの国において何らかの形で事業を終えたことについて外国青年から日本大使館への報告が行われている。最も多いのは大使館を訪問しての報告(7 か国)、次いで「その他」(5 か国)、文章による報告(4 か国)と続く。「その他」では、動画を使用した報告会の開催等が挙げられた。

他方、何ら報告がなかった国が9 か国存在し、改善が必要と考えられる。

問 招へい外国青年は、帰国後に事業の成果などを日本国大使館に報告しましたか。

・大使館を訪問して報告した	7 か国
・文章による報告があった	4 か国
・何も報告はなかった	9 か国
・その他	5 か国

② 在外公館とのつながり(複数回答可)

現地の事情に応じて様々であるが、多くの国において「大使館が実施する文化事業等に組織的に協力」(8 か国)、「大使館が実施する文化事業等に個人的に協力」(6 か国)等、外国青年の招へい実績が事業後に活用されている。

他方、特段のつながりができていない国(3 か国)や名簿を把握している程度で実際に活用されていない国(6 か国)もあるため、改善が必要である。

「その他」では、大使館 Facebook のフォロー等が挙げられた。

問 帰国した青年と日本国大使館との間でのつながりはどの程度ですか

・大使館が実施する文化事業等に組織的に協力	8 か国
・大使館が実施する文化事業等に個人的に協力	6 か国
・大使館が実施するレセプション等に招待	4 か国
・大使館として名簿を把握している程度	6 か国
・特段の関係がない	3 か国
・その他	5 か国

③ 事後活動の把握の有無

多くの国において「日本文化の紹介等、日本に関連する活動を実施又は計画している」(7 か国)、「左記以外の社会貢献活動を実施又は計画している」(4 か国)等、外国青年の事後活動について把握している。

他方、「特段把握していない」(5 か国)も存在する。

問 帰国した青年がこの事業に参加したことをきっかけに日本と関連する活動や社会貢献活動を実施又は計画しているか、把握していますか。

・日本文化の紹介等、日本に関連する活動を実施又は計画している	7 か国
・上記以外の社会貢献活動を実施又は計画している	4 か国
・特段把握していない	5 か国

④ 今後の改善要望

本事業を各国との関係強化により資するものとする観点から、建設的意見が多く寄せられた。事業既参加青年のネットワークは貴重であり、より活用されるよう情報提供を行う等の取組を行っていくべきと考えられる。

問 事業参加後の外国青年の日本とのつながりについて、改善すべき点その他特筆すべき事項があれば御記入をお願いします。

(一部のみ抜粋)

- 事後活動のきっかけを与えることが必要と考える。それによって、大使館とのつながりも一層強くなると思料する。
- 参加者が大使館のイベントへ参加するなど、一定程度のつながりがある。しかしながら、今後参加者がどのように成長・活躍するか未知数の部分も有り、連絡の取り方について、検討の余地がある。
- FB 等のソーシャルメディアを使った両国のメンバー間の交流が活発に行われている。

- 報告は可能な限り日本大使館を通じて行くと、日本大使館との繋がりを意識する機会になるので、そのような位置づけに改善すべきと思料する。
- 当館としても事後活動組織を通じてより積極的に日本文化行事に招待する等強いつながりを保つ努力をしていきたい。
- 大使館への帰国報告及び関係省庁への成果報告を促す

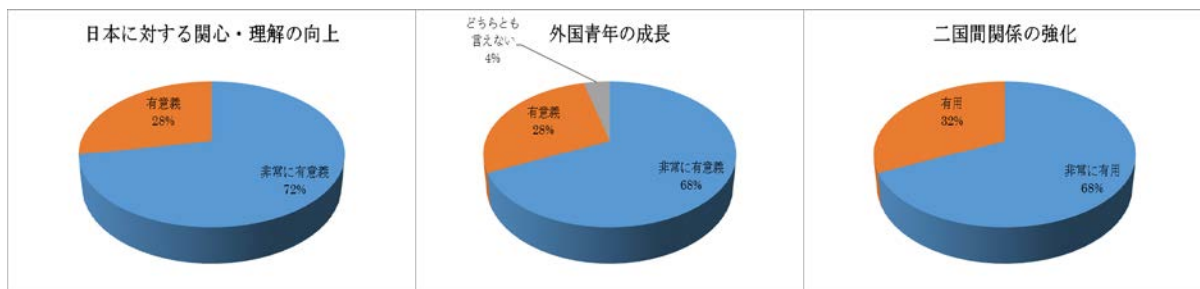
(3)外国青年の招へいの意義

在外公館に対し、外国青年の招へいの意義について、①日本に対する関心・理解の向上、②外国青年の成長、③二国間関係の強化の3つの観点から5段階での評価を行うよう依頼したところ、いずれの観点からも「非常に有意義(非常に有用)」及び「有意義(有用)」(5段階評価の5及び4)が96%以上を占め、非常に高く評価されていることがわかった。

問① この事業は、招へいされた外国青年の日本に対する関心・理解の向上にとって有意義だと思いますか。

問② この事業は、招へいされた外国青年の成長にとって有意義だと思いますか。

問③ この事業は、相手国と日本との関係強化という観点からみて、有用なツールだと判断されますか。

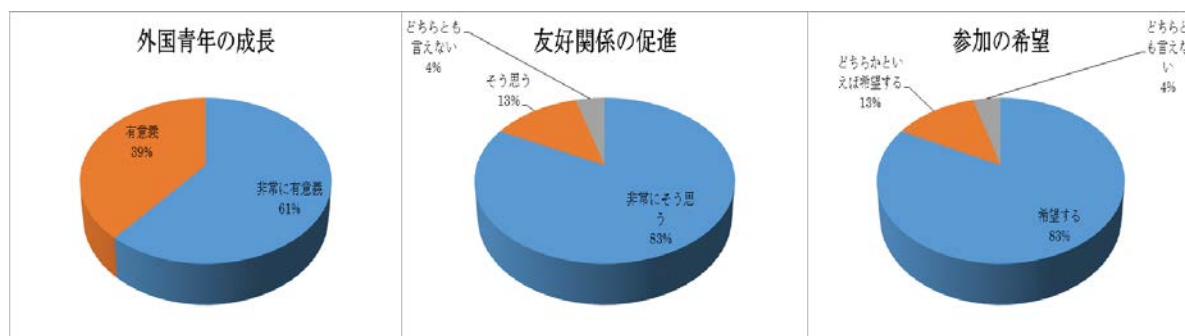


また、交流対象国政府に対し、外国青年の招へいの意義について、①外国青年の成長、②二国間関係の強化の2つの観点から5段階での評価を行うとともに、③今後、事業への参加を希望するかどうかについて5段階により回答するよう依頼したところ、①②については「非常に有意義(非常にそう思う)」及び「有意義(有用)」(5段階評価の5及び4)が96%以上を占め、非常に高く評価されていることがわかった。③については、83%が「希望する」(5段階評価の5)、13%が「どちらかと言えば希望する」(5段階評価の4)であり、事業が各国政府から強い支持を受けていることが示された。

問① この事業は、招へいされた貴国の青年の成長にとって有意義だと思いますか。

問② この事業は、貴国と日本との友好関係の促進に貢献していると思いますか。

問③ 今後、この事業への貴国の青年の参加を希望されますか。



(4) 交流事業における船の寄港の意義(「東南アジア青年の船」事業寄港 4 か国のみ)

① 船の寄港の意義

在外公館に対し、船の寄港の意義について、①現地の親日感情の向上、②参加青年の成長の2つの観点から5段階での評価を行うよう依頼したところ、いずれの観点からも「非常に有意義」及び「有意義」が2か国となり、高く評価されていることがわかった。

問① 船の寄港は、現地の人々の間で日本に対する関心と理解を高め、親日的な感情を向上させる観点から、有意義だったと思いますか。

問② 船の寄港は、参加青年が異文化に触れて見聞を広め、自らの成長につなげる観点から、有意義だったと思いますか。

問① 船の寄港: 現地の新日感情の向上		問② 船の寄港: 参加青年の成長	
・非常に有意義	2 か国	・非常に有意義	2 か国
・有意義	2 か国	・有意義	2 か国

また、対象国政府に対しては、船の寄港の意義について、①日本との友好関係の促進、②参加青年の成長の2つの観点から5段階での評価を行うよう依頼したところ、①については、「非常に有意義」(5段階評価の5)が3か国、「有意義」(5段階評価の4)が1か国であり、②については、4か国で「有意義」のみの回答となった。事業が各国政府から強い支持を受けていることが示された。

問① 船の寄港は、貴国と日本との友好関係を促進する観点から、有意義だったと思いますか。

問② 船の寄港は、参加青年が貴国の文化に触れて見聞を広め、自らの成長につなげる観点から、有意義だったと思いますか。

問① 船の寄港: 友好関係の促進		問② 船の寄港: 参加青年の成長	
・非常に有意義	3 か国	・非常に有意義	4 か国
・有意義	1 か国		

② 寄港時の報道

4か国において船の寄港に関して何らかの報道が行われていた。全ての寄港国において「新聞でとりあげられた」(4 か国)とともに、次いで「テレビで取り上げられた」、「新聞で取り上げられた」が各2か国であり、複数の媒体で報道されていることがわかる。

また、一部の国では、現地紙の電子版での発信も行われている。

問 船の寄港が報道等で取り上げられた場合には、把握している範囲でその報道状況を教えてください。

・テレビで取り上げられた	2 か国
・ラジオで取り上げられた	2 か国
・新聞で取り上げられた	4 か国
・雑誌で取り上げられた	—
・その他	—
・特段把握していない	—

③ 今後の改善要望

寄港地・寄港日程の調整や事業実施中の連絡体制等について具体的な意見が寄せられた。

問 船の寄港について、改善すべき点その他特筆すべき事項があれば御記入をお願いします。

(一部のみ抜粋)

- 可能であれば、寄港地・寄港日程は相手国政府だけではなく、現地公館の意見を聞いて調整してほしい。
- 本邦及び乗船中の担当者間の連絡体制、及び当館や政府側からの相談事項への対応体制等につき遺漏なきようお願いしたい。

(5) 交流事業における日本青年の航空機による訪問の意義(訪問国のみ)

① 航空機による訪問の意義

航空機による訪問の意義について、①現地の親日感情の向上、②参加青年の成長の2つの観点から5段階での評価を行うよう依頼したところ、いずれの観点からも「非常に有意義」及び「有意義」のみの回答となり、高く評価されていることがわかった。

問① 日本青年の訪問は、現地の人々の間で日本に対する関心と理解を高め、親日的な感情を向上させる観点から、有意義だったと思いますか。

問② 日本青年の訪問は、参加青年が異文化に触れて見聞を広め、自らの成長につなげる観点から、有意義だったと思いますか。

問①航空機による訪問: 現地の新日感情の向上		問②航空機による訪問: 参加青年の成長	
・非常に有意義	7 か国	・非常に有意義	8 か国
・有意義	4 か国	・有意義	2 か国

また、対象国政府に対しては、航空機による訪問の意義について、①日本との友好関係の促進、②参加青年の成長の2つの観点から5段階での評価を行うよう依頼したところ、①については、「非常に有意義」(7 か国)、「有意義」(2 か国)であり、②については「非常に有意義」及び「有意義」のみの回答となり、高く評価されていることが示された。

問① 日本青年の訪問は、貴国と日本との友好関係を促進する観点から、有意義だったと思いますか。

問② 日本青年の訪問は、参加青年が貴国の文化に触れて見聞を広め、自らの成長につなげる観点から、有意義だったと思いますか。

問①航空機による訪問: 友好関係の促進		問②航空機による訪問: 参加青年の成長	
・非常に有意義	7 か国	・非常に有意義	7 か国
・有意義	2 か国	・有意義	3 か国
・どちらとも言えない	1 か国		

② 訪問時の報道

回答のあった航空機訪問経験国 10 か国のうち、7 か国において日本青年の訪問に関して何らかの報道が行われていた。「テレビで取り上げられた」(4か国)、「新聞で取り上げられた」(4か国)が最も多く、一部の国では主要紙や国営テレビなどで大きく報道されている。

個別の記述回答結果からは、エストニアでは教職員新聞に写真入りで報道されたり、ドミニカ共和国では既参加青年が司会を務める当地テレビ局の番組に日本青年が出演したこと等が挙げらる。

問 日本青年の訪問が報道等で取り上げられた場合には、把握している範囲でその報道状況を教えてください。

・テレビで取り上げられた	4 か国
・ラジオで取り上げられた	1 か国
・新聞で取り上げられた	4 か国
・雑誌で取り上げられた	-
・その他	1 か国
・特段把握していない	3 か国

③ 今後の改善要望

航空機による訪問の評価及び船の寄港との比較に関する意見が寄せられた。

問 航空機による日本青年の訪問について、改善すべき点その他特筆すべき事項があれば御記入をお願いします。

(一部のみ抜粋)

○ペルーのように日本から船舶で訪問するには遠すぎる国の場合、日本青年がペルーを訪問するには航空機しかないところ、参加青年が相互にお互いの国を知ることが重要であるという観点からも有意義であったと考える。

○ニュージーランドの受入機関は、青年の船の良さは、船上研修にある、すなわち外界から隔絶されたクローズドの世界で青年たちだけで交流できるのは強みだと強調している。

(6)内閣府青年国際交流事業に関する要望

在外公館及び交流対象国政府に対して、内閣府青年国際交流事業全体にかかる改善すべき事項等をたずねたところ、広報強化の必要性、各国事情に配慮した事業実施の要請など具体的なリクエストのほか、事業を評価し、今後も継続を望むとする意見が寄せられた。

問 その他内閣府青年国際交流事業に関して、現地日本国公館として具体的な要望や改善事項があれば教えてください。

(一部のみ抜粋)

<在外公館>

○ 本事業自体が未だ一般的に周知されていないため、当館としては積極的な広報を行っていく必要があると考えている。ホームページや Facebook、紙媒体を通じた広報を行うにあたり、本事業の広報媒体をより充実させて頂けると有り難い。

- 在エストニア日本国大使館として本件プログラムは大変貴重な交流プログラムであると考えており、地方都市交流の一環として当国 Saku City と姉妹交流関係にある長野県佐久市への訪問を提案、これが実現したほか、当館文化行事の一環として当国からの参加青年にプログラム参加の報告の機会を提供するなど、本件交流プログラムをより多角的に活用、その広報効果に留意して取り組んでいる。
- エストニアでは教育省のみならず国を挙げての歓待を受けた。それぞれの日本人参加者はこの経験を通じエストニアにおける国政への距離が近いことを身をもって感じた旨感想文を寄せておりこのプログラムの重要性が見て取れる。
- 日本人参加青年が自主的に練習し、当国訪問先の各所で合唱披露した当国第2の国歌『我が祖国、我が愛』(Mu isamaa on minu arm)の歌が好評であった。これはソ連領時代も民衆により歌い継がれた愛国歌で、これを日本人青年がエストニア語で披露したことはエストニア参加青年に大きなインパクトを与えた。当国の歴史を調べる中で日本側参加青年が自主的に企画したもので、この種の活動プロセスもまた若い青年の活力であり、この交流の重要な要素であると思われる。
- 本事業は大変有意義な事業であり、このような経験のできる事業は他にないことから、ペルー人参加青年にとっても貴重な体験となっており、若い世代の知日派及び親日派の育成に大いに貢献していると考えている。
他方、事業参加後に日本とのつながりを失う参加者も少なくないことから、せっかく参加したペルー人青年が引き続き当地においてペルーと日本の架け橋としての存在になるよう、当館としても然るべくフォローが必要である。
- タイでは青年の船の同窓会組織があり、独自に活動を行っている。このような同窓会組織への支援もぜひお願いしたい。
- 当国にて最も知名度が高い日本関連事業であり、青少年交流として着実に成果を積み上げる大切な事業として、今後とも可能な限り長期に存続されることを期待します。
- 「国際青年育成交流」事業、「青年の船」事業とも、ラオスにおける本事業の知名度は非常に高く、健全な青少年の育成ならびにラオスの将来を担う人材育成の場として、高い評価を受けている。社会の各分野で活躍する青年の対日理解を促進し、日・ラオス間の友好と相互理解の増進を図る場として、当館も両事業の重要性を認識しており、今後の継続・発展を強く希望する。

<交流対象国政府>

- プログラムは、青年のリーダーシップ力発達に非常に役立つ。青年の成長を助長し、他国および他青年が課題及び発展にどのように取り組んでいるのか学べる。多くの青年に参加の機会が与えられるべきである。
- 全体として、国際青年育成交流事業は参加者及び我々機関にとって非常に有意義であった。全て、計画及び同意に基づき実施された。参加者の意見を見ると、ディスカッションに重点を置くことが重要である。ディスカッションはより深みのあるもの、また(内容・テーマ等が)繰り返しにならないようにすべき。またプログラムが事前に提供されていることが望ましい。例として、2 国におけるプログラム日程が同時に提供されると、参加者への事前研修にインプットとして組み入れることが可能となる。全体的に、2 国における国際青年育成交流事業は非常に上手く実施された。
- プログラムの最も有益な改善点は、プログラム日程の期間延長であろう。

- 個人的見解として、プログラムは元来の形式、すなわち日本のみならず世界中数多く寄港するものとして継続すべきである。
- 本プログラムは素晴らしいものであった。英国人参加者及び日本人参加者が意見交換し経験を共有できる良い機会であった。本プログラムの御蔭で、参加者は自身の専門領域における知識を深め、視野を広げることが可能となった。
- 「東南アジア青年の船」事業は、インドネシア青年のための青年国際交流プログラム中、最も人気があり好まれるものの一つである。51 日間に及ぶ活動は、同窓生間の息の長い友情を培い、感情的かつプロフェッショナルな絆を結ぶのに有益である。また、本プログラムは、彼らのスキル向上や自身に対するより一層の自信を得ることにもつながり、多くの同窓生のその後キャリアにも寄与している。
- カンボジアは、本プログラムの成功のため、いつでも喜んで日本政府に協力する。また、我々カンボジア青年は、日本政府に対し、本プログラムの成功のためのご尽力に感謝申し上げます。本プログラム参加青年の多くは、その後の勉学及びキャリアにおいて優秀な成果を上げている。彼らは、我々の国家発展及び国の未来のリーダー人材となるであろう。